

FOMCの結果は合格点、米景気安定ならリスク選好継続を期待

- FOMCは利下げの可能性示唆、株式市場も好意的に反応
- FOMCは緩やかな景気拡大を想定、利下げは景気次第か
- 今後の米国景気指標が良好なら株高基調の継続を期待

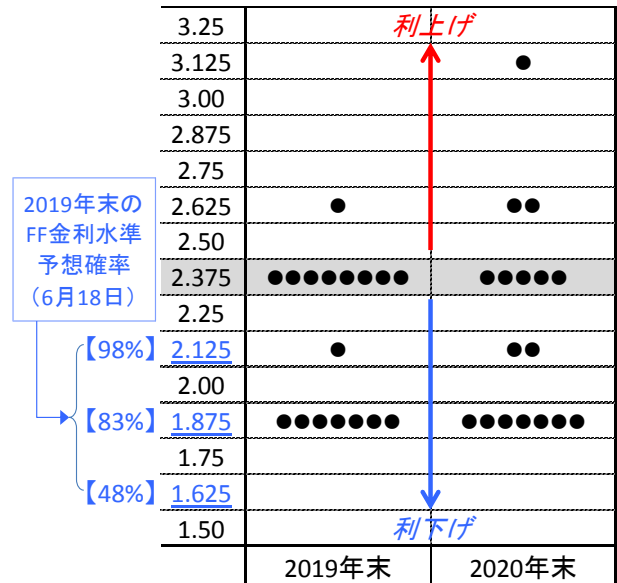
FOMCは市場の利下げ観測を正式に追認へ

18・19日FOMC（連邦公開市場委員会）は、景気拡大持続に向け適切に行動すると表明するなど、年内利下げの可能性を示唆しました（図1）。景気については不確実性が強まったと指摘しつつも緩やかな拡大を想定（図2）、利下げは予防的措置との見解もにじませました。市場は株高で反応するなど、今回の結果を好感した印象です。

FRBという援軍得た米国株、焦点は米景気へ

今後の株高の持続性は景気次第と考えます。直近4度の利下げ期を振り返ると、景気後退を回避した①②では株高、景気後退に陥った③④では株安となったように、底堅い成長があってこそ利下げを素直に好感する流れとなった印象です（図3）。FOMCで今後は利下げも辞さずとのお墨付きを得て上昇期待も高まる米国株ですが、米景気動向に一喜一憂する日々が続きそうです。（瀧澤）

【図1】ドット・チャートが示す年内利下げ派は8名に

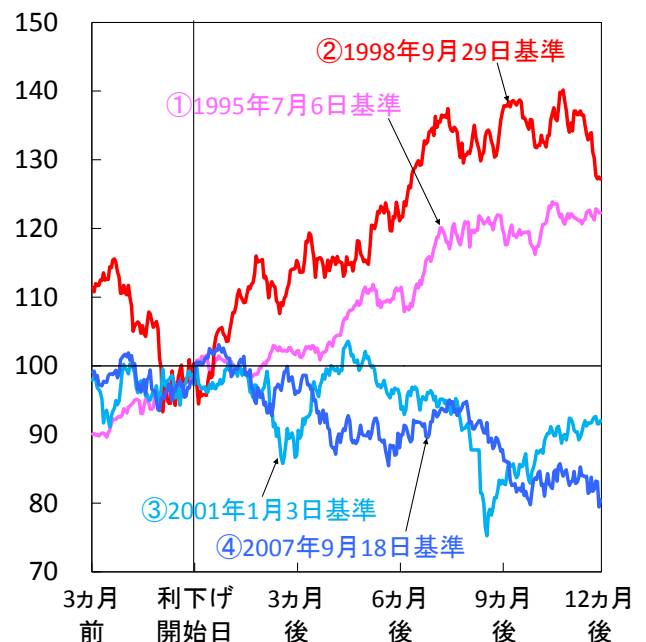
FOMC参加者によるFF金利見通し分布
(単位%、2019年6月時点)

注) ●がFOMC参加者17名の見通し。現行水準は2.375%（レンジ2.25-2.5%）。金融市場の予想確率はOIS（翌日物金利スワップ）から算出。

出所) FRB、Bloombergより当社経済調査室作成

【図3】米国株が利下げを好感するには景気安定も条件に

利下げ開始前後のNYダウ(利下げ開始日=100)



注) 利下げ開始日の株価を100として当社経済調査室が指数化。最終的な累積利下げ幅は①0.75%、②0.75%、③5.5%、④5.0%。③④は上記対象期間中に景気後退期（2001年3月～11月、2007年12月～2009年6月）入り。

出所) Bloomberg、NBERより当社経済調査室作成

【図2】FOMCは景気・雇用に自信も物価見通しを慎重化

FOMC参加者による米国経済・金利見通し中央値(%)

<上段: 2019年6月時点>

<下段: 2019年3月時点>

	2019年	2020年	2021年	長期
実質GDP (前年比)	2.1	2.0	1.8	1.9
	2.1	1.9	1.8	1.9
失業率	3.6	3.7	3.8	4.2
	3.7	3.8	3.9	4.3
PCEデフレーター (総合、前年比)	1.5	1.9	2.0	2.0
	1.8	2.0	2.0	2.0
PCEデフレーター (コア、前年比)	1.8	1.9	2.0	---
	2.0	2.0	2.0	---
FF金利	2.375	2.125	2.375	2.5
	2.375	2.625	2.625	2.75

※ 2019年3月時点からの変更箇所のみ塗りつぶし。

■は上方修正（失業率は下方修正）、■は下方修正（失業率は上方修正）。

注) PCEデフレーターは個人消費支出物価指数。

コアは食品・エネルギー除く総合。

FF金利は各年末時点。

出所) FRBより当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会